

グルジア政治・経済 主な出来事

【2013年6月10日～6月16日】

〔当地報道をもとに作成〕

平成25年6月18日

在グルジア大使館

主な動き

1. アブハジア・南オセチア

▼マリーニン露地域開発次官が北カフカスおよびアブハジア・南オセチアの社会・経済開発を監督(13日)

【アブハジア】

▼行政境界線の「国境化」(11日)

・露国境警備隊の発表では、2009年に始められた「国境」の整備が2013年中に完了する。エングリ川下流に新たに3か所の「公式検問所」が開設され、グルジアからの密輸がほぼなくなった。

▼「統一アブハジア」党大会が行われる(12日)

・「国民統合フォーラム」「経済発展党」「人民党」など各政党の代表者を含め330名が出席。

・現「政府」の路線に反対する姿勢を明確に打ち出した。ストラニチキン「副首相」など多数の要人が離党を発表。

▼子供舞踊団「アハザ」がポーランド領事館からビザを拒否される(13日)

・舞踊団は10月にビャウイストクで開かれる第6回国際音楽・芸術・フォークロアフェスティバルに招待されている。2010年にもポーランドを訪れた。

・クラスノダルのポーランド領事館はアブハジアで発行されたロシア連邦のパスポートを無効と判断し、グルジア国内で手続きするよう指示。

【南オセチア】

▼ラヴロエフ「内務大臣」がアブハジアを訪問(14日)

・アンクワブ・アブハジア「大統領」と会談。アブハジアと南オセチアの「内務省」の協力文書に署名。

2. 外 政

▼駐英大使に指名されていたジャバリゼ議員が辞退(10日)

・大統領が指名の承認を数カ月にわたって遅らせているためと説明。パンジキゼ外務大臣は慰留。

▼ベヤニ国連特別報告者がグルジアを訪問(10日～15日)

・国内避難民の状況の調査を目的とした訪問。サーカシヴィリ大統領、ウスパシヴィリ国会議長らと会談。アブハジア・南オセチア行政境界線付近の村々を訪問。

・14日の記者会見では「国内避難民の問題の解決に関して大きな進展が見られる」と評価。

・ベヤニ氏の報告は2014年6月の国連人権理事会で議論される予定。

▼ダラフヴェリゼ被占領地域出身IDP・住宅・難民問題

担当大臣がバクーを訪問(11日)

・アリエフ・アゼルバイジャン大統領、アスケロフ国会副議長と会談。

・ナゴルノ・カラバフからの避難民が暮らす地区を訪問。

▼トルキアニ法務大臣がリトアニアを訪問(11日)

・ベルナトニス・リトアニア法務大臣と会談。

・「Harm Reduction International Conference」に出席し、グルジア国内で議論されているマリファナの使用の合法化について話した。

▼プーチン露大統領がグルジアとの関係改善について発言(11日)

・国営英語TV放送「Russia Today」で、グルジアとの関係を「完全に」復活させる意思があるとして、犯罪・テロとの戦いにおける両国の治安機関の協力を呼びかけた。

・ソチ冬季五輪参加についてのグルジアの決定を評価。

・アブハジア・南オセチアの承認を撤回することは「考えられない」としつつ、両地域の問題は「その地域に暮らすすべての人々の利益を尊重して解決されるべきだ」と発言。

・13日、カラーシン外務次官が、グルジア国民に対するロシアのビザ取得要件緩和について協議していると発言。

▼アフガニスタンでのグルジア軍部隊駐屯地2か所を閉鎖(12日)

・最近の自爆テロを受けた措置。アラサニア国防大臣によれば、グルジア軍の求めにより、NATOはより安全な配属地を探している。

▼国連総会第67回本会議でアブハジア・南オセチアからの避難民に関する決議案が採択される(13日)

・賛成63、反対16、棄権84カ国(昨年は賛成60、反対15、棄権82)。2008年にはじめて提出して以降毎年賛成国が増えている。

▼貝谷駐グルジア日本大使がサーカシヴィリ大統領に信任状を捧呈(14日)

▼サーカシヴィリ大統領がローマで開催された第38回国連食糧農業機関(FAO)総会に出席(16日)

・サーカシヴィリ大統領は「飢餓撲滅の戦いにおける成功」により特別賞を受賞。

・シルヴァ事務局長と会談。サーカシヴィリ大統領は総会で演説し、国内の諸改革やロシアによる占領の問題について話す。

・マルティネリ・パナマ大統領と会談。

3. 内 政

▼アナニゼ・バトゥミ市長が辞任(11日)

・2010年以降副市長、2012年10月から市長を務めていた。

▼サーカシヴィリ大統領が国家安全保障会議を招集(11日)

・イヴァニシヴィリ首相は欠席。
・アフガニスタンに駐留するグルジア軍部隊に対する脅威など議論。

▼首相による国立大学学長代理の指名を含む法律改正案の第一読を国会が承認(12日)

・改正案によれば、学長選挙中の学長代理は首相が指名する。また、博士号を持つ者しか学長に就くことができなくなるほか、大学職員の給与の上限が設定される。
・12日、クヴィタシヴィリ・トビリシ国立大学学長が辞任。
・改正案は大学の自治を制限するとして、野党のみならず与党連合「グルジアの夢」の議員（とくに共和党）からも反対者が出た。
・イリア国立大学などの教授・学生が教育省前で抗議。大学関係者との事前の協議がなかったとして政府を非難。14日にはトビリシ国立大学とイリア国立大学の周囲を学生が取り囲んで「人間の鎖」をつくった。
・政府は国会に対し法案の迅速な採決を求めている。

▼テロを準備していたとしてロシア国籍の男性2名が逮捕される(13日)

・2名はダゲスタン共和国出身のミカイル・カディエフとリズヴァン・オマロフ。カディエフはインターポールから指名手配されていた。2011年からグルジアに住み、たびたび国外に出ていたとされる。
・トビリシ市内の一時的な住居から大量の爆薬、起爆装置、火器、偽造された身分証明書などが発見された。
・火器・爆発物の不法所持によって起訴。トビリシ市裁判所は審理前勾留を決定。予審は7月31日。

▼国会が労働法改正案の第三読を承認(13日)

▼大統領が拒否権を発動した刑事訴訟法改正案を国会が再承認(14日)

・被告弁護士の権利が制限されているとして、グルジア弁護士協会などが強く反対していた。

▼国会が司法最高審議会の審議員4名を選出(14日)

・裁判官ではない審議員6名のうち4名を選出。残りの2名の選出には国会の3分の2以上の支持が必要になるが、野党が審議を拒否したため未定。
・クブランヴィリ最高裁長官は、審議会が22日から活動を始めると発表。

4. 経済

▼クヴィリカシヴィリ経済・持続的開発大臣がポーランドを訪問(9日)

・ポーランドの経済大臣、ワルシャワ証券取引所所長らと会談。

▼国際通貨基金がグルジアの予測経済成長率を発表(10日)

・2013年前半に成長が低下したが、政治状況が安定的であれば2013年後半から成長が回復するとして、2013年の経済成長率を4%、2014年の経済成長率を6%と予測。年間インフレ率は2013年末で1.5%、2014年末5%と予測。

▼2013年第1四半期の最大の投資国は日本(10日)

・グルジア国家統計局の発表した速報値によれば、2013年第1四半期の外国からの直接投資は226百万ドル。国別の内訳は日本(20%)、アゼルバイジャン、オランダ、イギリス、中国、チェコ。

▼豪紙「Business Insider」がイヴァニシヴィリ首相の資産を評価(11日)

・同紙によればイヴァニシヴィリ首相の所有する美術品コレクションの価値は10億ドル。

▼2013年5月の工業製品生産者物価指数(14日)

・グルジア国家統計局が発表。工業製品生産者物価指数は前月比0.01%低下(前年同月比0.5%低下)。紙・印刷が19.2%上昇したのに対し、金属製品-3.4%、化学製品-4.8%。

▼ロシアがグルジアワインの輸入を再開(15日)

・2006年の禁輸措置以後はじめて30,000本のグルジアワインがロシア国内に運ばれた。ロシアは2013年中にグルジアのワイン・コニャックを約1千万本輸入する予定。

5. その他

▼サムタツカロ村で3週間ぶりにイスラムの礼拝が行われる(14日)

・アゼルバイジャンとの国境に近いデドプリスツカロ地区サムタツカロ村では、住民どうしの宗教的な対立により礼拝を行なうことができなくなっていた。
・14日、ザカレイシヴィリ再統合問題担当国務大臣が同村を訪問。
・同日トビリシではすべての宗教の平等を訴えるデモが行われた。